

回負画

種為作

中九條

源氏

回舎

傍心

長



鶴



上編九十

程彦佐

四頁四

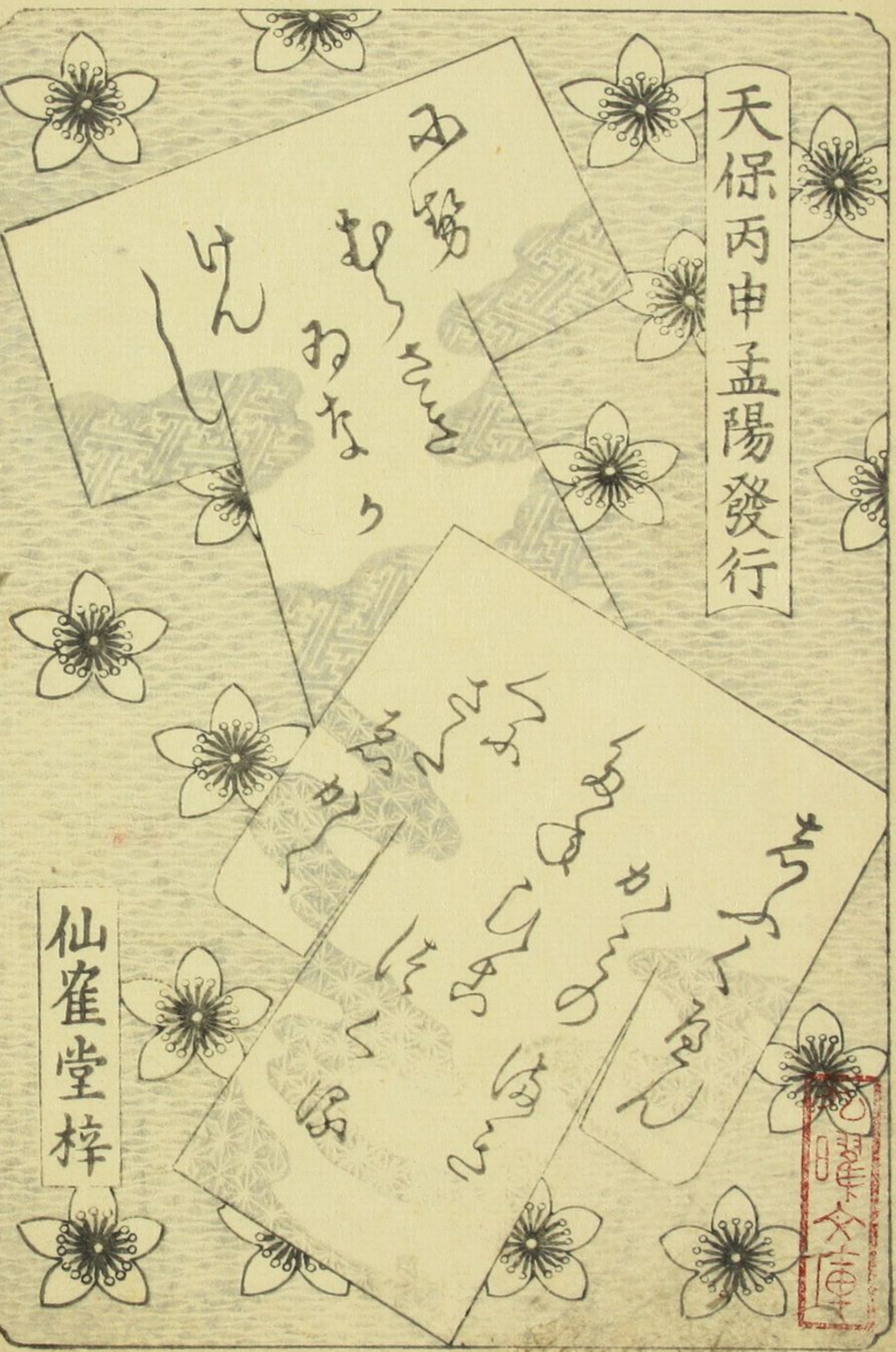


梓 鶴屋

鳥海文

鳥海文

天保丙申孟陽發行



西勢

おなう

けん

おなう

おなう

おなう

仙雀堂梓



此編十葉稿たり刻予故ありて源氏の巻の教は奔く五十余年
 住るれ下谷城離液草居とトを頃テより明石先氏の移る
 條に當りも頗奇偶といふべき歎と這くる程るれと上野のひと
 らと隔りも彼教の山の麓遙々と書る廻を目前に古郷ゆく
 思ひるも此所より棲め物ありて月とるふよりこれが池水より
 影と輝め是あが石中と後十葉を綴り添へ角分りけは燭牛の
 舎あり枝ののりと納子お町るんどもあかこそと羊頭の住ひより
 明るるをかりの巻の初は仙通ひよりまづ南の馬場へいり小路と隔て林の
 林の深るるをたれより富ま言根の跡白く雨降山の青やう湯島乃宮居を
 右にまき榎寺の佛閣を左に連といひつれが樓上の泳めの自證のやうるれを
 傍此葉を案の一本の花腫か墓ある金龍寺の門の並ひ森の下道南の方
 丁字街へし未の秋のすゑ移りて新書のかたりふ記

天保丙申孟春發行

柳亭種彦

彦



源氏十葉編

志豆



雲ちりく
 とびふ
 ちりふ
 ちりふ
 見よ
 我々
 春の
 りの
 くらり

木こし
 けり

魚
 一
 一
 一

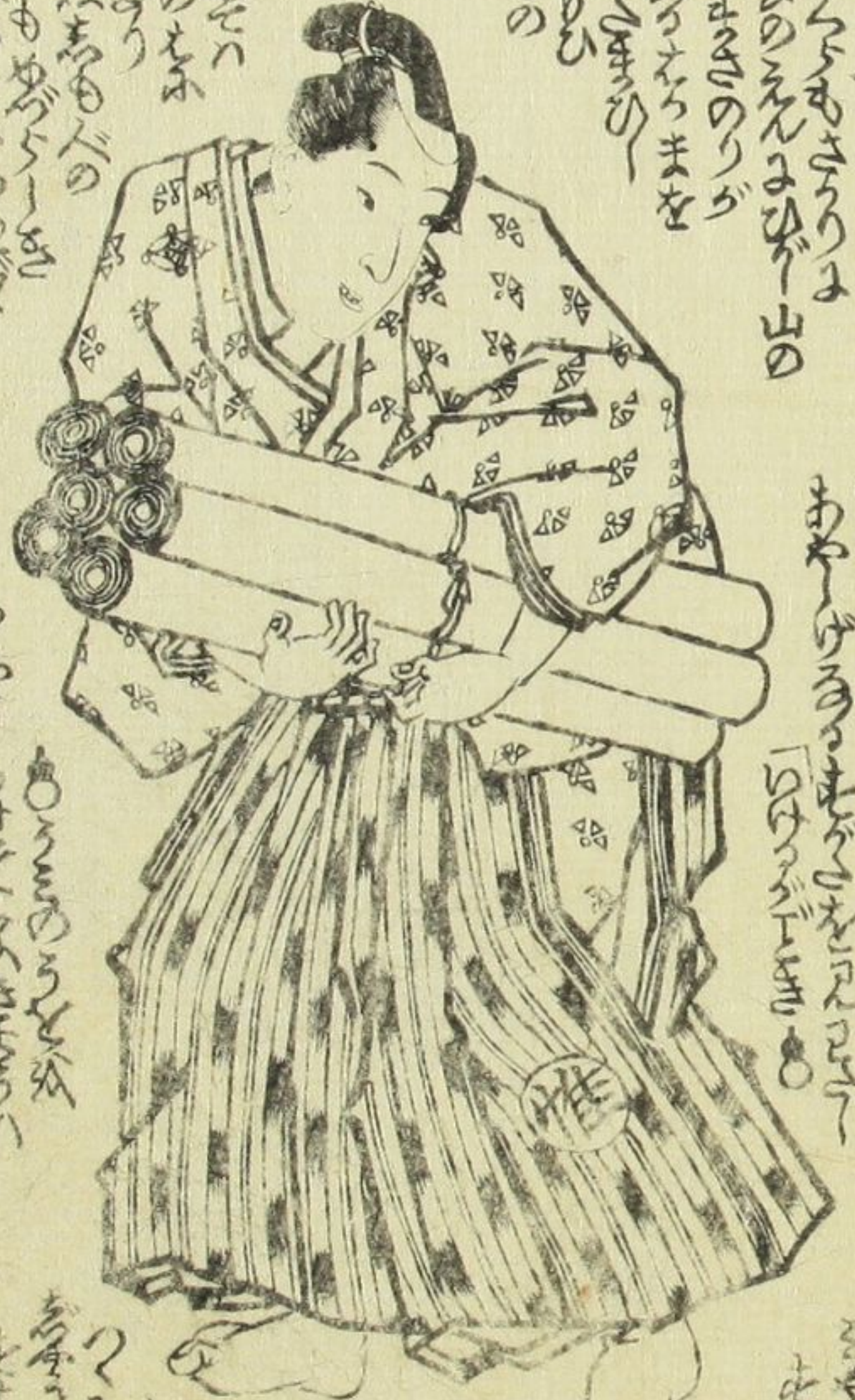


くらり
 くらり
 くらり
 くらり
 くらり

魚
 一
 一
 一



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or transcription related to the illustration. The text is written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or transcription. The text is written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in the upper right section, including a list of names and descriptions.

△年...
あはれ...
あはれ...
あはれ...

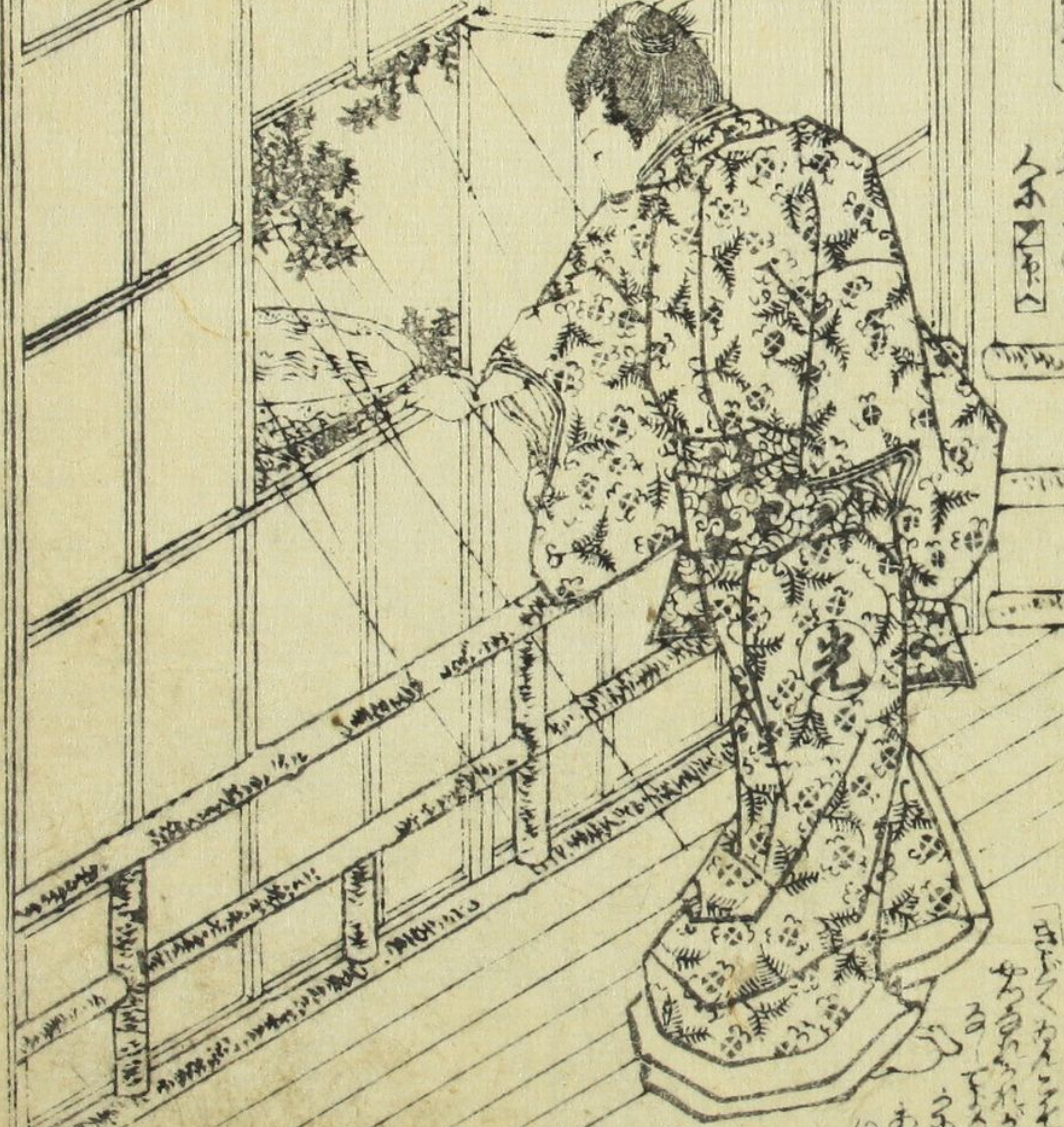
△...
あはれ...
あはれ...
あはれ...



Handwritten Japanese text in the middle right section, including a list of names and descriptions.

あはれ...
あはれ...
あはれ...

Handwritten Japanese text in the upper left section, including a list of names and descriptions.



あはれ...
あはれ...
あはれ...

國貞画



種彦作

修紫田舎源氏

専奉一八編より九二編まで用板おかしらずしりあはれ程奉希の

柳亭種彦作

歌川國貞画

一筋道雪眺望

空亭仙果作

世話蒙求

空亭仙果作

紫房紋笥箱

歌川貞秀画

糸柳花縁結

歌川貞秀画

全六冊

昔斷ちちえんく二冊 むり諸火二冊

種彦校合 仙客亭柏琳作
井筒屋の鏡子 紫房紋笥箱
八百屋の娘 歌川貞秀画

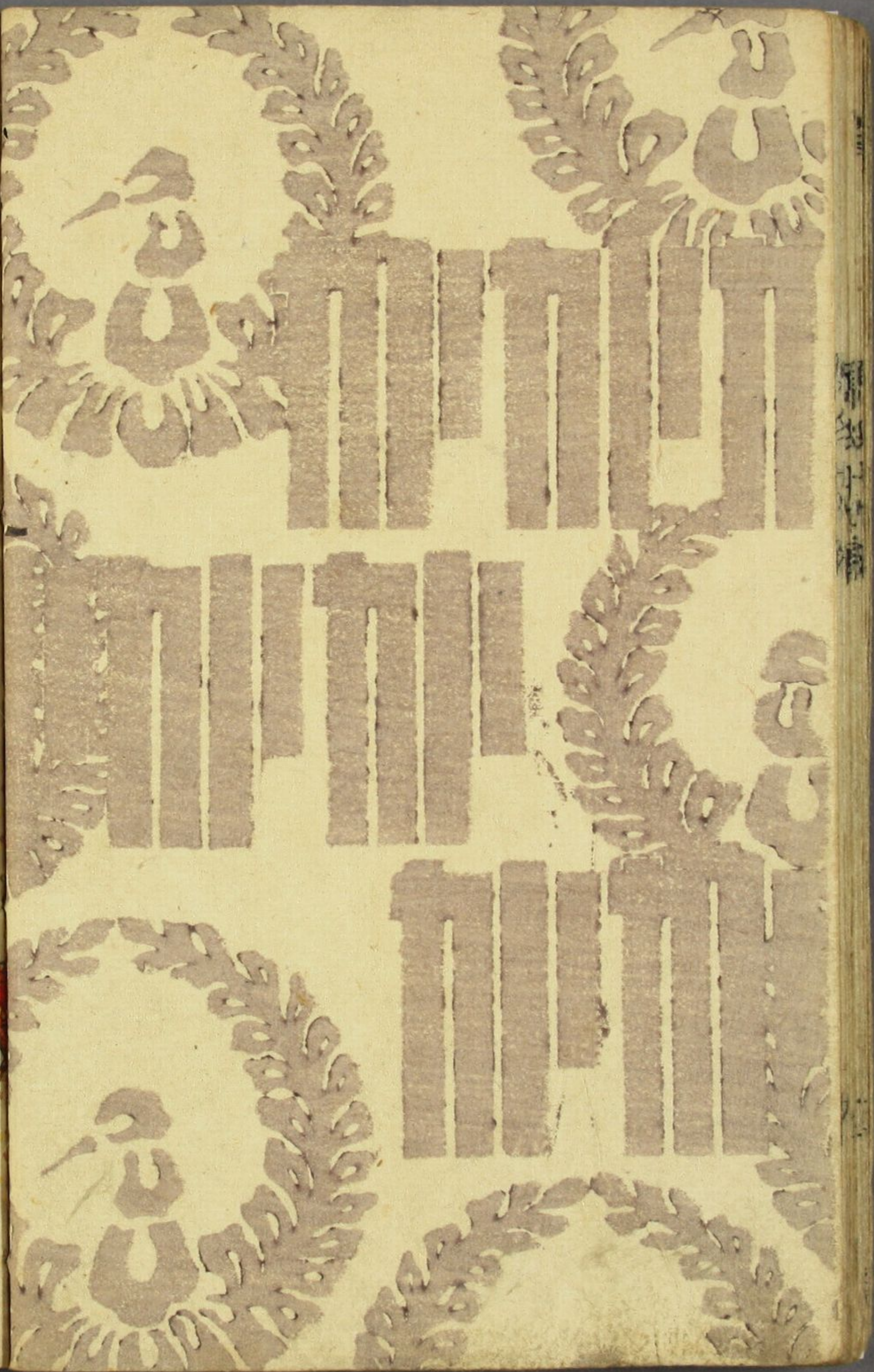
書物地本錦繪問丸通油町仙鶴堂鶴屋喜右衛門

天保七年丙申新春新彫



秀案
為女

十九編下



源氏物語



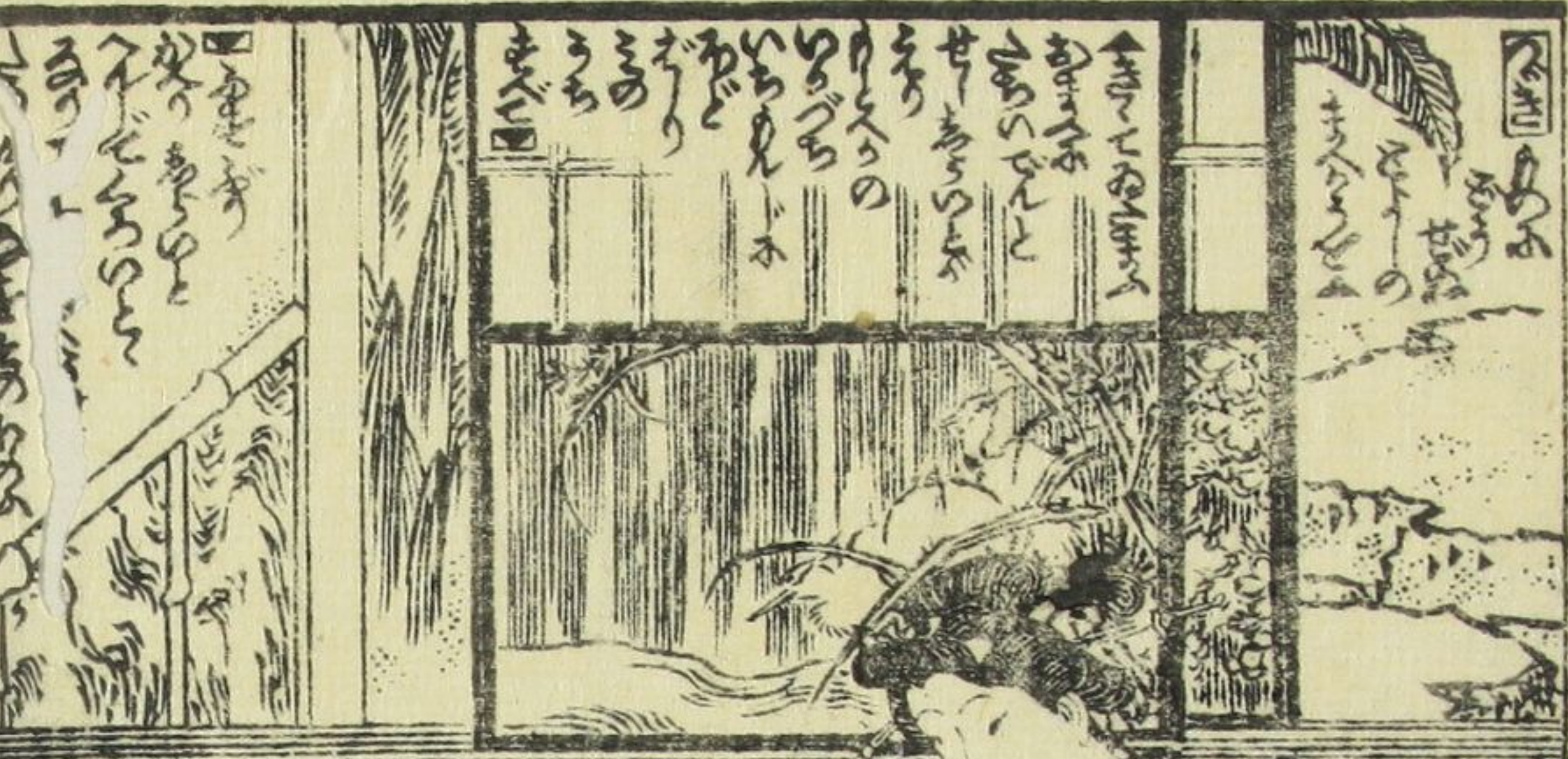
かきつばたのついでに
 しのぶのついでに
 しんがらりたるまに
 けんまじりまに
 かしらねくまに
 あらきまに
 らうまに
 ちかまに
 こゝろまに
 まに
 ばまに
 ゑまに
 ぬまに
 ふまに
 へまに
 へまに
 へまに
 へまに

あきつばたのついでに
 しのぶのついでに
 しんがらりたるまに
 けんまじりまに
 かしらねくまに
 あらきまに
 らうまに
 ちかまに
 こゝろまに
 まに
 ばまに
 ゑまに
 ぬまに
 ふまに
 へまに
 へまに
 へまに
 へまに



あきつばたのついでに
 しのぶのついでに
 しんがらりたるまに
 けんまじりまに
 かしらねくまに
 あらきまに
 らうまに
 ちかまに
 こゝろまに
 まに
 ばまに
 ゑまに
 ぬまに
 ふまに
 へまに
 へまに
 へまに
 へまに

あきつばたのついでに
 しのぶのついでに
 しんがらりたるまに
 けんまじりまに
 かしらねくまに
 あらきまに
 らうまに
 ちかまに
 こゝろまに
 まに
 ばまに
 ゑまに
 ぬまに
 ふまに
 へまに
 へまに
 へまに
 へまに



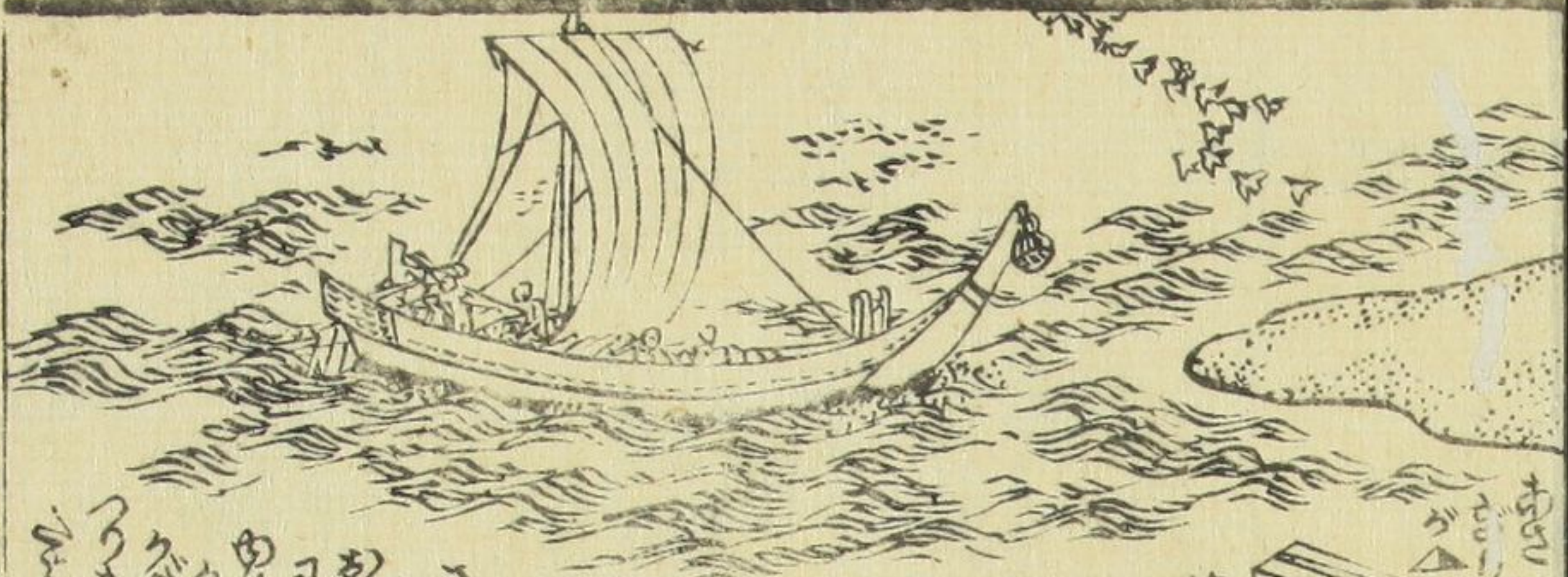
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは



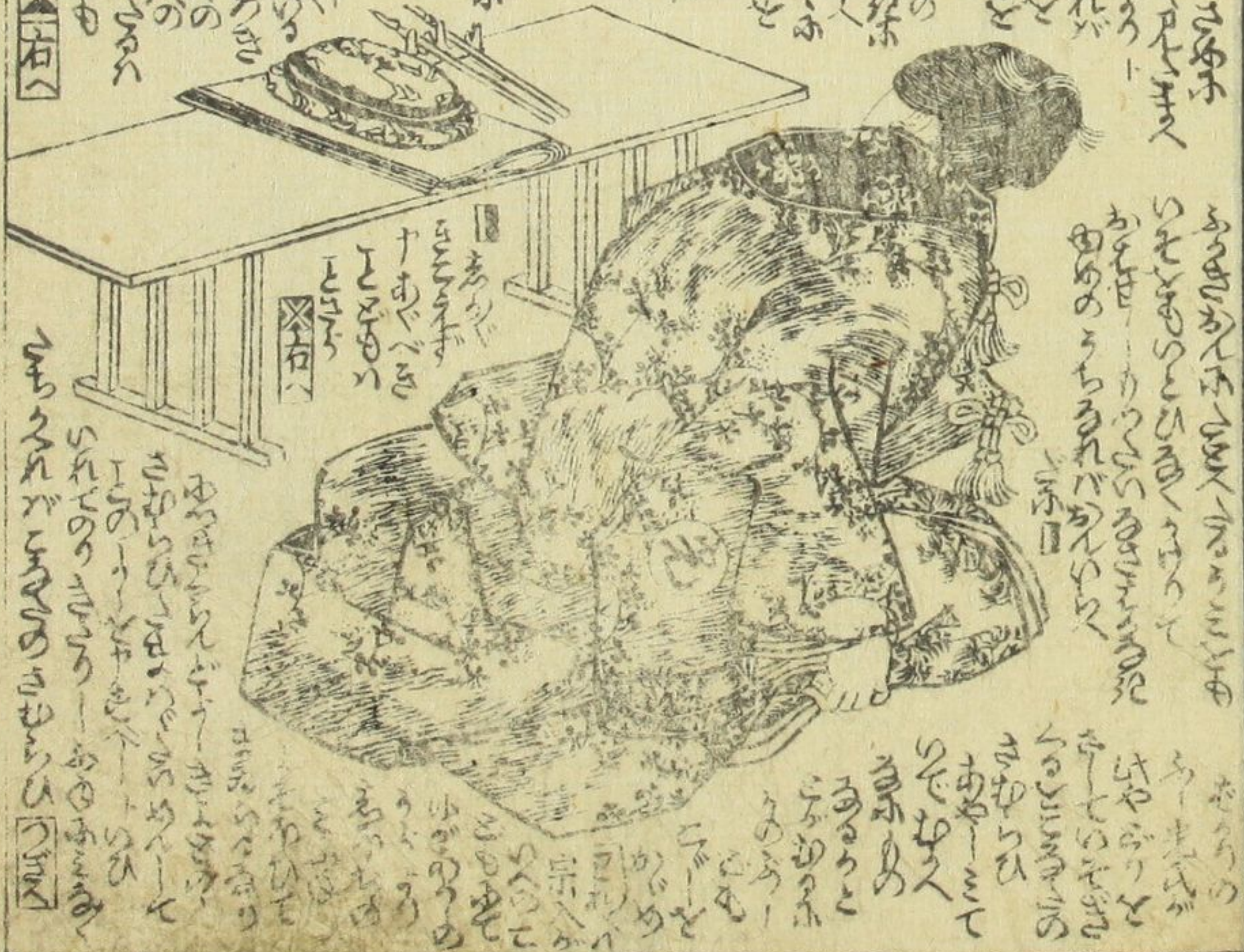
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは



あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは



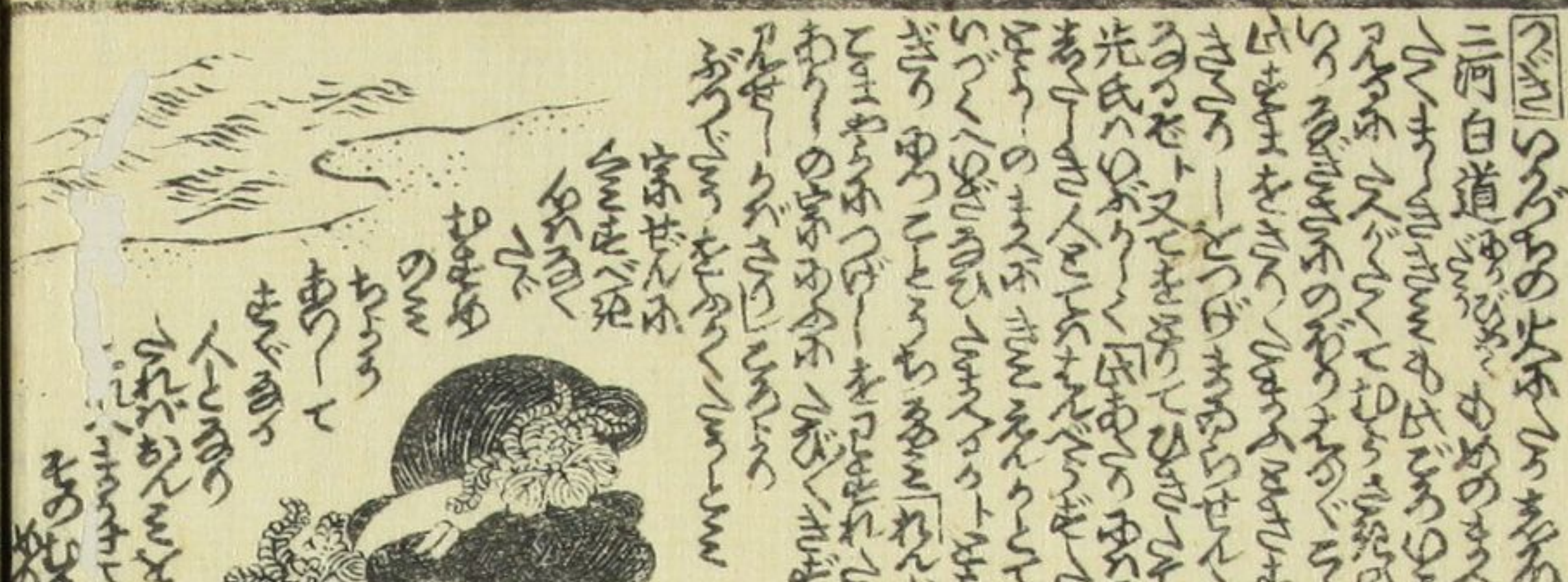
三河白道... 舟の... 山...



あつち... 食... 座...

源氏十九卷

...



桐... 窓... 左... 右... 桐... 窓... 左... 右...

子
子
子
子
子

